

会議録

会議の名称	平成29年度第1回西東京市子ども子育て審議会保育園あり方検討専門部会
開催日時	平成29年10月6日（金曜日）午後7時30分から午後9時20分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	委員：普光院部会長 井上部会員 武田部会員 鳴海部会員 吉野部会員 事務局：保谷子育て支援部長 飯島子育て支援課長 遠藤保育課長 岡田 子育て支援部主幹 齋藤児童青少年課長 日下部子ども家庭支援 センター長 武田西原保育園長 笹本けやき保育園長 朝原なか まち保育園長 海老澤保育課課長補佐 栗林子育て支援課係長 保育課里主任 子育て支援課八巻主事 保育課豊田主事
議題	議題1 西東京市の保育の現状と民間活力の活用について 議題2 保育の質の確保について 議題3 今後の公立保育園のあり方について
会議資料の名称	資料1 西東京市子ども子育て審議会保育園あり方検討専門部会名簿 資料2 西東京市子ども子育て審議会条例 資料3 西東京市子ども子育て審議会傍聴要領 資料4 公立保育園の委託化等検討の概要 資料5 西東京市における今後の保育ニーズと公立保育園が果たすべき役割の方向性 資料6 公立保育園の民間委託における保育の質の確保について 資料7 公設公営保育園に望む役割に関するアンケート調査結果集計表 資料8 西東京市子ども子育て審議会保育園あり方検討専門部会スケジュール
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
○発信者名： 発言内容 《開会》 ○事務局： これより、第1回西東京市子ども子育て審議会 保育園あり方検討専門部会を始めさせていただきます。 《専門委員の委嘱・任命》 《部長挨拶》 《部会員自己紹介》	

《事務局職員自己紹介》

○普光院部会長：

それでは、ここから会議に移りたいと思います。

《傍聴者入場》

議題1 西東京市の保育の現状と民間活力の活用について

○普光院部会長：

それでは、議題(1)西東京市の保育の現状と民間活力の活用について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：《資料4及び5に沿って説明》

○普光院部会長：

これについて、御質問、御意見等ございましたらお願いします。

○井上部会員：

公立保育園の今後の役割として、地域のセーフティネットがあると思いますが、養育困難児童の支援のためにお金を生み出すということで、新しく民間委託、民間委譲を進めていかれると、実質、セーフティネットの受け皿が減ってしまい、委託がどこまでされるのかわかりませんが、果たして市内全部の受け皿になるのか心配があります。

○普光院部会長：

事務局いかがでしょうか。

○事務局：

現在公設公営園が10園ございます。今後必要な役割を検討していく中で、どのくらいの数があれば、その役割を果たせるのか、そちらの方を検討していただきたいと思います。事務局では、具体的に何園と数は決めておりません。

○井上部会員：

公設公営が10園、公設民営が7園ありますが、公設民営園も民間委譲、民設民営にしていく計画があるのかお聞きしたいです。

○事務局：

計画は今のところはございませんが、公設民営を民間委譲を含めた民設民営化ということも検討していただきたいと思います。公設公営園10園の民間の活用についても御意見をいただき、何園あればセーフティネット等の対応ができるのかというところも検討していただきたいと考えております。

○普光院部会長：

公設民営を民設民営にすべきかどうか、今回の検討内容に含んでいるということで、事務局が設定した理由については、今後の議論の中で出てくるということでよろしいでしょうか。

○事務局：

はい。財源的にも厳しい状況にありますので、そういったところも考慮していただきたいと思います。

議題2 保育の質の確保について

○普光院部会長：

では先に進みます。次に議題(2)保育の質の確保について説明をお願いします。

○事務局：《資料6に沿って説明》

○普光院部会長：

今の説明について、質問等ありますでしょうか。

○吉野部会員：

第三者評価の結果についてですが、「良く出来ている」「まずまず出来ている」というのが65%となっています。「どちらともいえない」が出来ている方に捉えるのか、出来ていない方に捉えるのか、第三者評価を受けている立場として、このまま鵜呑みにして良いのかという気がします。

私たちの園では、「どちらともいえない」というのは、あまり評価できないと考えておりまして、6割の「どちらともいえない」を良い判断材料とするのは、どうなのでしょう。

○武田部会員：

特に問題がない、とここでは理解をしています。公立保育園でやっていたことを踏襲します、というのが第一前提にありますので、そのところで、「どちらともいえない」というのは変わっていないという意識ではないかと思っています。公立保育園のさまざまなことを踏襲し、さらに改善をして独自のクラスを、と努力をしていると思いますので、変わっていない部分、踏襲している部分、ではないかと読みました。

○普光院部会長：

何が良く出来ているのか、どちらともいえないのか、ということでしょうか。

○武田部会員：

公立保育園の時と比較をして、ということだと思います。

○普光院部会長：

公立保育園の時と比較をして、何が良かったという質問があったということでしょうか。

○事務局：

質問項目については、利用者調査の全16項目と同じような内容について、実際に民営化前と民営化後とを比較して、どう感じていらっしゃるかを保護者の方にアンケートしたもので、その結果になっています。

○普光院部会長：

保護者の答えということですね。

○井上部会員：

良いところも悪いところもあり、総合してまずまずという時に「どちらともいえない」を選ぶのではないかと個人的には思います。

○普光院部会長：

具体的に何が良くて何が悪くなったとを感じるかというところまで、精査すべきだということでしょうか。

○井上部会員：

これはあくまでも、保護者の利用満足度だと思います。実際に保育園で過ごしているのは子どもであり、本当に満足しているかはここには出てこないと思いますので、保護者の満足度が向上しているから良い保育が出来ているというのは、私は短絡過ぎるのではないかと思います。

公立保育園も西東京市は素晴らしい保育を実施していたと思いますので、ここの数字だけで判断は出来ないと思います。

民営化園は、保護者の目に見えるサービスをすごく頑張っているように見えますし、サービス残業をしているようにも見受けられます。それが、本当に保護者が満足し、だから民営化がいいと一概には言えないと思っています。

○普光院部会長：

民間の職員の頑張りで、保護者が満足できるサービスがされているということでしょうか。

○井上部会員：

決して公立の保育士が頑張っていないという訳ではなく、目に見えない部分の高い保育の質を維持していただいていたと思います。

民間園では、玄関で子どもの引渡しが出来からサービスが良いと聞きますが、私はそれがイコール保育の質が良いとは思っていません。そこに人員を充てる分、どこかが削減され、どこかが保育の質の低下に繋がっているのではないかと考えるところがありますので、この結果がいいから満足しているというのは、保護者目線であって、保護者が便利になったと思っているだけではないかと思っています。

○普光院部会長：

私が驚いたのは、職員の方と保護者の方の感想が全く食い違っているということです。

第三者評価の自己評価が、公設公営が一番高く、民設民営が一番低くなっています。

これについて理由がわかる方いますか。

○武田部会員：

ここの結果と同じかわかりませんが、こういった調査をすると、本当に努力をしている職員の方が出来ていないという自己評価をします。もっと努力をして欲しいと思う人の方が、比較的出来ているという評価をするというのが、これまでの経験としてあります。職員の育成という観点からいくと、自己評価と必ずしも一致はしていません。

○普光院部会長：

理想が高いということでしょうか。

○武田部会員：

出来ていると言われても、もっと出来るのではないか、もっと保育を工夫すれば良かったのではないか、というようなさまざまな上昇志向を持っている人の方が自己評価は低

いです。いろいろなところで見ていて、それは痛感します。

○普光院部会長：

公立保育園のお立場からはいかがですか。

○鳴海部会員：

公立保育園の自己評価が高いというところでは、自己満足と思っているような誤解を招いてしまうようなところがあるではないかと思います。

○武田部会員：

この結果の数字を否定するつもりは全くありませんので、誤解のないようにしていただきたいのですが、私の身近なところではそう感じています。

○鳴海部会員：

公立保育園の働く環境については、公務員であるというところで、働きやすい環境が整っているというのがあるため、良い意味での余裕、ゆとりというのが保育の方に向けられているのではないかと考えております。

議題3 今後の公立保育園のあり方について

○普光院部会長：

次に議題(3)今後の公立保育園のあり方について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：《資料7に沿って説明》

○普光院部会長：

今の説明について何か質問、御意見はありませんか。

○井上部会員：

資料4に人件費について公設公営園は非常に高く、民設民営園の人件費は低い、その分保育材料、行事費は民設民営園の方が掛けているという表がありました。保育材料や行事費用は、もちろん子どものためにやっていただいていることは良いことだと思いますが、私はやはりもっと人件費に掛けてもらいたいと思っています。

アンケート結果を見てみますと、民設民営園はベビーマッサージ等、いろいろやりたい気持ちがあるのはわかりますが、自園の保育が少し薄くなってしまうようなら、そこは心配だと思います。

今年、園児のプールの事故がありましたが、保育士が子どものために、やってあげようと、無理に午後にプールを開催したと聞きました。このようなことは公立ではまずやらないと思います。プールは体力のある午前中に行い、午後は体力を回復させる時間で、保育士のサービスの気持ちだったとは思いますが、結果こういった事故に繋がってしまう、この意識の違いは何だろうかと個人的に考えるのですが、そのあたりの公立の保育士がお持ちの事故の少なさ、当たり前になっている保育がどれだけ大事なのかを検証できるのであれば、すごくいいと思います。

巡回保育は不要だという意見が多かった結果を見ますと、相談したい時はしたいが、あまり干渉はしてもらいたくないという考えが民設民営園にはあるのではないかという印象を受けました。

公立保育園のときは無かったのに、民営化園に委託した直後に事故が多く起き、もちろん委託した初年度の不安定な時期にふとした不注意で起こってしまうのではないかと思います。そういうところの、公立保育園が日々注意している大事なところ、普段の保育の中にある部分をもっと民間に継承していただければと思います。

○普光院部会長：

公設民営園はいかがですか。

○武田部会員：

環境の変化というのはいろんな意味で変わってくるので、移管時というのは大幅に状況が変化するというところでの不安定さがあります。ただ一定年数経った後は、むしろ子ども達は元気に活発になるというところで、その辺の変化を時系列で見ていただくと、民営化の中で子どもたちはより一層、豊かに生活しているというところもあるのではないかと思います。

民間委託を受けて、いろんなことを経験しながら、公立はすごいと実感するところがあります。それは、組織として動いているので、良くも悪くも一定基準を担保できているということです。それはプラスの面だけではなく、マイナスの面も含めて、一定の基準を担保できているということです。

例えば職員のいろいろな問題です。年齢も上ですし、経験も豊かですから、安全な部分と、安全を逆に強調しすぎて、子ども自身が自由に、というところをセーブしてしまうようなところがない訳ではありません。そういった制約がある部分と、逆に、公立として組織として、こういう事を決めてやりましょう、という時にはまとまってぐっと伸びていく、という組織力の強さはすごく感じています。

民間園はそれぞれの園、それぞれの法人が理念に基づいて、独自の展開をしているので、園そのものは非常に活性化してやっているのかもしれませんが、地域の中や、西東京市全体の中でプラスになっているかという、必ずしもそうではなく、地域の保育の質の観点から言えば、西東京市全体のレベルアップに繋がるかという、そういう力は残念ながらありません。

組織の大きさからくるレベルの維持、改善の力は、決して早くはないですが、進むときは進み、進まない時は全く進まないということはあると思います。

民間であれば、園の職員集団がまとまれば、ぐっと改善される、という利点はあると思います。例えば、私の園で言うとアレルギーの対応を考えた時に、特別な対応は全くしていません。卵や乳製品を出来るだけ使わない献立を立てているため、献立そのものが、アレルギー対応になっているからです。全ての子ども達が健全に、特別な子どもだけ除く必要はなく、みんな同じ給食を食べられるということです。それは小さな一つの組織の中から対応できることであり、他の民間保育園全て一緒にしますか、ということでは無い訳です。

今回4月から、公立保育園が市全体でアレルギー対応をされました。かなりの組織力を持って、市全体の子どもの安全を確保するという事を出来ると思います。それぞれの特色をどう現場の中で、あるいは市全体の中で生かしていくのかというところで、単に

公立が良い、公設民営園が低い、ということでもないと思っています。

そして財政面ですが、民設民営の保育園と公立保育園と公設民営園とでは、全くお金の出所が違うというところで、市の負担の問題が出ていますが、一律の土壌で議論するのは乱暴になってしまうと思います。

財政的な保障が有るところと無いところ、あるいは公立保育園で、行政として必要と認めたところに人員を配置していくところとの違いです。例えば、基幹型保育園であれば地域対応の職員を増配置し、それ用に職員がいますが、公設民営園にそれはありません。地域に向けて何かをしていくという事は出来ない話ですが、出来ないながらも工夫をし多少なりとも地域の人たちと良い関係を持っていこうとしています。

制度の違いからくる制約をどう理解し、判断していくのかということとは、大きな課題だと思います。

○普光院部会長：

制約を良い方に生かすというのはおかしいですが、悪い制約は減らして良い方へ展開していきたいということですね。

○武田部会員：

公設民営園を、民間園にしては財政がいくら変わってくるというデータがありますが、お金の仕組が違いますから、市の財政負担のところだけを見ますと、国や都からのお金の出所が違ってくる、という話だと思います。市の財政から考えれば、当然そこは考えていかなければならない問題だとは思いますが。

○普光院部会長：

主に財政的な理由からこういった検討が始まっているのではないかと考えると、大きなことだと思いますか。

○武田部会員：

十分、承知はしています。どこを重点に考えていくのかを整理していかないと、やはり保育の質をどう担保していくかということは、すごく大きな課題だと思います。

○普光院部会長：

そこを基軸に沿えなければいけないところだと思います。

○鳴海部会員：

私立園には私立園の役目があり、公立保育園には公立保育園での役目があるというところで話を進めていけたら良いと思います。公立保育園は経費もかかっているというところで、その負担に応じた役割を担っていなければならぬと思っています。

一定基準を保っているというのが公立の役割でもあり、強みでもあります。公立ならではのネットワークで健康課等とも連携を取りながら、子どもを授かった時から、子どもを安心して産み、安心して育てるという切れ目のない保育のシステムを中心になって作っていくことが、行政の直営園というところの役割と感じています。

公設公営園の園長が、小規模保育施設の指導検査に行かせていただいておりますが、園長に感想を聞くと、「小規模保育施設は厳しい人手不足の中で保育をしており、こういった施設に私たちも支えられていると感じた。だからこそ、経験年数もあり、それなりのス

キルも積んでいるところでは、自分達が公立の宝と思い、しっかり人でもって貢献していきたい。」と、園長の思いが出ていました。

○普光院部会長：

今、保育が多様化しています。昔は保育施設というと認可保育所だけでしたが、認可の中に小規模保育などいろいろ出来て、今は新しい事業者も増えています。指導監査をする方々もいろんな保育を御覧になるのではないかと想像しています。

公立保育園というのはやはり堅い、時々硬直化しているという言われ方をしますが、武田委員がおっしゃったように、堅いことが良い部分と、やはり堅すぎると言われる部分とが確かにあると思います。程よい堅さというのはどういうものか難しいところですが、公立が長年のスキルを培って、そこで見出してきた一定のラインというのは、ひとつ大きな価値を持っていると思います。

○鳴海部会員：

そういったものを求められているところに提供していくことが、公立保育園の役割となっていくとすごく感じています。

○普光院部会長：

民間の多様性にもいろいろな多様性があり、それぞれ工夫してやっていくような良い意味での質、一定以上のレベルの多様性は民間は自由であるべきであり、そこを公立のやり方はこうだからとこうしなさいという話にはならないと思いますが、こどもの健康や命、安全といったレベルのところでの多様性は、間違えると非常に危険です。多様性といっても、自分達では出来ずに困っている施設も実際にはあり、そういったところが、このアンケートでも指導を受けてみたいという形で表れていると思います。

民間だ、公立だと、バッティングしがちだと思いますが、論じているレベルが違うのではないかという気もしますし、保育の質にもいろいろな意味での質があり、いろんな意味で多様性という理由で割り込んではいけない質があると思います。

質の違う次元があると思いますし、そこを分けて公立の支援、援助、あるいは指導ということ、必要な部分があるのではないかと考えています。

○井上部会員：

10月頃に民間園見学をしたとき、年長児が昼寝をしていない園がありました。小学校に向けてお昼寝の癖を早くなくしてもらうことが目的で、保護者からもそういった要望があるため、10月からお昼寝はしていないと聞きました。公立保育園では、子どもには休息をいっぱいさせてあげたいと、1・2月くらいからお昼寝を徐々に少なくし、減らして行くと聞きました。どちらにもメリットデメリットはありますが、真ん中くらいにできないか、10月は極端だと思いました。

○武田部会員：

うちの保育園では、食事の後は比較的自由に過ごしています。寝たくない子は寝なくてもいい、寝たい子は寝ていい、という時期を経て、やがて、という感じにしています。

きっと、その園の子どもの活動具合や、様子によってやっていたのだと思います。

○普光院部会長：

延長保育の利用があれば、昼寝がないともたないですね。

○武田部会員：

お昼寝をしないことで、夜早くに就寝してもらいたい、生活のリズムを整えて就学に向かってもらいたい、そういった考え方もあります。一定の時間に就寝して、朝一定の時間に起きて学校へ向かってもらいたい、このリズムをどう作っていくかというのは悩むところではあります。

○井上部会員：

そこでもう一つ心配だったのは、保育士は休めているのかと思いました。10月から年長児が起きているという中で、交代であっても、お昼寝の時間は休める時間だと思っておりますので、休息が取れているのか、大丈夫なのかと思いました。

○普光院部会長：

保育園で無理矢理お昼寝をさせられたということが最悪な思い出だと、保育園出身者の成人からよく聞きます。保育士の都合で、お昼寝をさせるというのはあまり良いことではないと思います。その子の体力や生活スタイルがありますので、個別対応がベストではありますが、5歳児になればある程度、自分達の判断で出来るように育つと思います。

これにもいろいろな考えがあり、民間も意見交換ができるネットワークがあれば良いと思いますが、公立は複数園あるため、自分達で議論をしてある程度高めていくことが出来る素養を持っていると思います。公立はこうだと決めるのではなく、柔軟に議論することで、公立の強さが出せるのではないかと思います。

○鳴海部会員：

今、基幹型保育園が5園あり、そこが中心になってブロック会議というのを行っています。私も公設民営園も小規模の方も集まり情報交換をする会議で、今年は3回あります。日々の保育の情報交換をしながら、お互い良い刺激がありますので、それぞれの園の保育に生かしていけるような話し合いを、これからもしていきたいと思っています。

○普光院部会長：

基幹型保育園が音頭を取り、その会議でそういった話もしているということですか。

○鳴海部会員：

はい。とても意義深い会議だと思っています。

また、公立の役割として思うことは、福祉ということです。

子どもや子育てをしている家庭、市民にとって、福祉の場所であるというところは、一番大事にしていかななくてはならないところだと思っています。いろいろな事情、想いを抱えて子育てを頑張っている方がいらっしゃり、本当に大変な事情を持つ子ども達の育ちを見守り、保障していくという福祉的な支援が、公立には出来るところ、公立がしなくてはいけない責務だと思っています。

○普光院部会長：

公立はそれだけの経験年数を持った人材を抱えており、無理が利くというところはあるかと思っています。養育困難なご家庭としっかりと向きあうためには、向き合う方にも資質

や労力、ある程度の余力が必要というところがあると思いますが、そういう意味では、公立にはそれがあると思います。

○鳴海部会員：

基幹型保育園の中には、地域子育て支援センターが併設しており、そのひろば事業にコーディネーターという専門の保育士が2名います。私もそこでコーディネーターの経験が何年かありますが、そこですごく感じたことは、そこに来れるお母さんはまだ良いということです。そこに来れず、孤立した中で子育てをしているところに手を差し伸べ、支援をしていかなければならないということ、そういったところは公立が率先してやっていかなければならないところだと思います。そういった人達をどう見つけて、どう行くかが問題だと思います。

○武田部会員：

それはもっと身近なところが求められていると思います。市内に30数園ある中で、遠くに行かなくても、本当に声の聞こえる保育園にいけるのが一番良いと思います。実際に地域の人達が気軽に通うことができ、ちょっとした相談があった時に地域の中にある保育園それぞれが、役割を果たせるようなものを備えていくことも必要だと思います。

認可であれば、公立、民間問わず、そこまではやれる力を持ち、人材を確保するということは、特にこの先、求められてくるところだと思います。

私の園に、地域の赤ちゃんを連れてお母さんが遊びに来ることがあります。少し遊び、話をして帰って行くのですが、それだけで元気になります。お子さんも元気になります。子育てがすごく楽になっていく、そういうものを目の当たりにすると、遠くまで行くのではなく、地域にセンターとしてあることも、それはそれでとても大事なことだと思いますが、それと同時に近くに、立ち話でも出来るような、地域の中にあることが本当に大事だと思います。それは職員が声を掛けていけば出来ますし、ちょっとした会話が、どれだけ安心するかということだと思います。

○普光院部会長：

公立が福祉的な役割を率先して受けなければいけない立場だと思いますが、民間も、民間保育所である限り、児童福祉施設であり、やらなくても良いということは無いはずです。でもやはり、能力的に出来るところと出来ないところがあるのかと私は観察していますが、地域の子ども、福祉のために頑張ろうという民間がいないと、公立としても困ると思います。そこで、公立がネットワークを持ち、一番最後の砦的な役割を果たすのではないかと思います。

○鳴海部会員：

大きな役割であると思っています。

4 その他

○普光院部会長：

今後もこういった議論を続けていけるとと思いますが、本日はお時間ですので、議題のその他に移りたいと思います。

事務局、説明をお願いします。

○事務局：《資料８に沿って説明》

○普光院部会長：

本日の議題は以上となりますがいかがでしょうか。

○事務局：

今後、必要な資料等がございましたら、事務局まで御連絡ください。

○普光院部会長：

それでは引き続き、次回からも議論を続けていきたいと思いますが、今日は以上となります。

御協力ありがとうございました。